

サーバ仮想化シスターズが おしえて・あ・げ・る!!

今から間に合う仮想環境の統合監視パワーアップ術

マンガ：栗生 梨みこ / ad-manga.com



お

どうしたの?

昨日うちの商品がテレビで紹介されて受注管理システムの負荷が急激に上がっています!

また現れたかあ
うちは問題なく仮想化対応できたから大丈夫だろう

このままだとパンクですっ!!

部長っ!!
大変ですっ

それは井内君の担当だろう

私に言われてもこまるよ

それが...

付付ガヤ

また旅に出ちゃって
いないんです

どうするんだい
井内君しか
わからんだろう

だから
相談しに
きたんです

ああああ
仮想化で大きく
システム構成変わって
しまったからなあ...

なにいい
あの旅人めえ

カチャ

どうしたらいいか
さっぱりわからんっ

仮想化は
導入後も
大切なのよ

えっ



サーバ仮想化シスターズが おしえて・あ・げ・る!!

今から間に合う仮想環境の統合監視パワーアップ術



う... 噂の...

うちにも... きた...

サーバ仮想化シスターズが
おしえて・あ・げ・る!

仮想化することで
いっぱいいっぱい
になってしまって

導入後の運用を
井内君に頼りきり
だったのね

その通りです

でも安心して
もう旅人に頼らなくても
大丈夫よ

えっ

私達に任せなさい!!

詳しくはこっちを見てね

システム運用管理に必要な2つの視点は? ➡

サーバ仮想化シスターズが おしえて・あ・げ・る!!

今から間に合う仮想環境の統合監視パワーアップ術

仮想化したものの肝心の運用管理を忘れていませんか？

コスト削減のためにいち早くサーバを仮想化してはみたものの、仮想環境構築後の運用管理を軽視して部下任せにしていた部長、平穩だった管理者人生最大のピンチです。

仮想化は、統合によるコスト削減ばかりが強調されていますが、新しい環境での運用開始後の管理業務に慣れていない場合も多く、仮想化対応の結果、下記の運用管理に関する課題が顕在化しました。



物理環境と仮想環境が混在し障害の切り分けや影響範囲の特定が困難になった。
環境が変わっても運用管理の作業手順は属人化されたままで、ノウハウが蓄積されない。

日立が考えるこれからのシステム運用管理に必要な2つの視点

こうした問題がシステムやサービスの品質低下や運用管理業務のコストの増大などにつながっています。最悪の場合、統合によるコスト削減効果など吹き飛んでしまうかもしれません。そのため、これからの運用管理に必要な要件として、日立製作所では次の2つの視点が大事だと考えています。

システムの一元管理

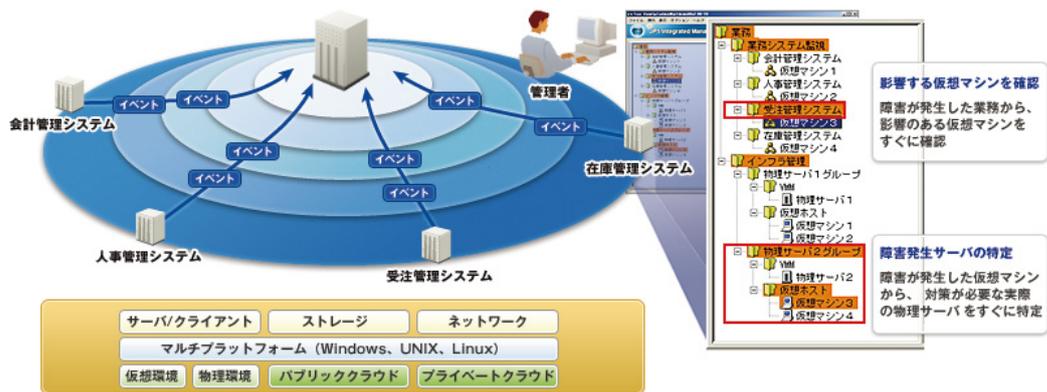
従来のIT視点での監視から業務視点での監視にレベルアップすることで、効率的な稼働監視や障害予知、ビジネスへの影響範囲の見える化が可能になります。これにより、仮想環境でのリソース配分を適切化することができ、サーバ集約した仮想環境の性能を最大限引き出すことが可能となります。

運用管理業務の標準化・自動化

これまで人手で行っていた運用業務のプロセスを可能な限り自動化し、自動化できない運用業務は標準化・形式化することで、個人のスキルに頼らないシステム運用管理を実現することが重要です。これにより、個人でなく組織全体で運用管理の業務における手順や問題などを共有することができます。

日立はこれからのシステム運用管理の切り札として、仮想・物理・マルチプラットフォームといったさまざまな環境のシステム全体を、単一の監視コンソールから業務視点で一元管理する統合システム運用管理「JP1」と、運用管理業務の属人性を排除した標準化や、技術ノウハウを活かして業務手順をガイドする業務ポータル「uCosminexus Navigation Platform」の2つのモドルウェアを連携させた、「ビジネス視点での統合監視」を推奨しています。

図1 JP1では、業務視点でのシステム全体の見える化とインバクツ監視により、仮想環境下の障害発生サーバを迅速に特定する



サーバ仮想化シスターズが おしえて・あ・げ・る!!

今から間に合う仮想環境の統合監視パワーアップ術



日立ミドルウェアで実現するビジネス視点での統合監視



ビジネス視点での統合監視を実現するために、JP1が「システムの一元管理」を、uCosminexus Navigation Platformが「運用管理業務の標準化・自動化」をそれぞれ支援。万一、仮想環境で障害が発生しても、JP1なら業務への影響範囲の確認や、対策の必要な物理サーバをすぐに特定することが可能です。また、仮想環境では迅速かつ低コストに仮想マシン（VM）を追加できるのがメリットのひとつですが、その反面、安易な追加によりVM間の稼働実態が把握しづらくなり、物理層のリソース（CPU・メモリ・ネットワーク帯域など）が枯渇して性能劣化につながることもあります。

JP1は仮想／物理の両面で正確な稼働状況やレスポンスを把握でき、適切なリソース配分により仮想サーバの性能を最大限に引き出すとともに、各種のレポートなどから性能低下や障害の予兆を事前に捉えることも可能です。

また、uCosminexus Navigation Platformによって、今まで人手で行ってきた障害対応の運用手順をルール化し、その運用オペレーションをナビゲーションすることができるので、個人のスキルに左右されない迅速な対応が実現できます。

人の判断を必要とする自動化できない作業でも、視覚的にわかりやすい業務フロー図で作業手順を表示し、適切なシステムへ誘導するとともに、作業に必要な他のシステムと連携したガイダンスを表示し、正しい対処法方をスムーズにナビゲートしてくれます。これらの機能を実現することで、新人でもベテラン管理者並みの確実な対策を実施できるようになります。頼れる部下が旅に出ても、仮想環境の運用管理業務を万全なものにし、大きく効率化してくれること請け合いです。



図2 JP1が監視したエラーコードを自動的にuCosminexus Navigation Platformに引き渡し、フローチャートによる対策手順表示と対策に必要なシステムが連携することで、誰でも高度な運用オペレーションを実施できる



●製品販売元
株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部

お問い合わせ先
HMCC (日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター)

TEL:0120-55-0504 URL:<http://www.hitachi.co.jp/soft/hmcc/>

備考：利用時間9:00～12:00 13:00～17:00[土・日・祝日・弊社休日を除く]